川と人

Vol.12
1998

'98北海道スキーマラソン（輪厚川河川敷）

CONTENTS

【石狩川名所めぐり】
赤平市 独歩苑・エルム森林公園 3
由仁町 ゆめっく館・ユンニの湯 4

【HISTORY】
川と水と共に 横山 良治 5～8

【WORLD REPORT】
ニュージーランドの経済改革 浜本 聡 9～12

【躍動/石狩川'98・石狩川流域イベント一覧】 13・14

【インタビュー 川に生きる】 15・16
幾春別川をよくする市民の会 嵯峨 義輝/赤間 由美/真山 秀樹

【河川トピックス】
北海道開発局
豊平川洪水危機管理検討会発足 17
北海道開発局 石狩川開発建設部
魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業 18
北海道開発局 旭川開発建設部
牛朱別川分水路 19
旭川市
「忠別川」と「北彩都あさひかわ」 20

【イベント便り】
みずウォーク'97 北海道シリーズ 21
旭川冬まつり 21

【石狩川振興財団の活動報告】
第4回 石狩川サミット開催 22

編集後記 22

石狩川名所めぐり

VIEW POINT
エルム森林公園

市街より赤間の沢沿い約10kmにある、エルム山麓の広大な森をテーマとした自然公園。「いきがいの森」「ふれあいの森」「いこいの森」「よろこびの森」と名付けられたそれぞれの森には、子供からお年寄りまで幅広い層の方々が自然に親しめるよう遊具や施設が配置されています。林間キャンプ場には全棟ログ造りのケビン大・小、テントサイト、給水設備が設けられ、たくさんの人々が利用します。

赤平市

草木の芽と川面が目覚め　せみ時雨、
木の葉が茂り落ち葉の音に独歩を偲ぶ

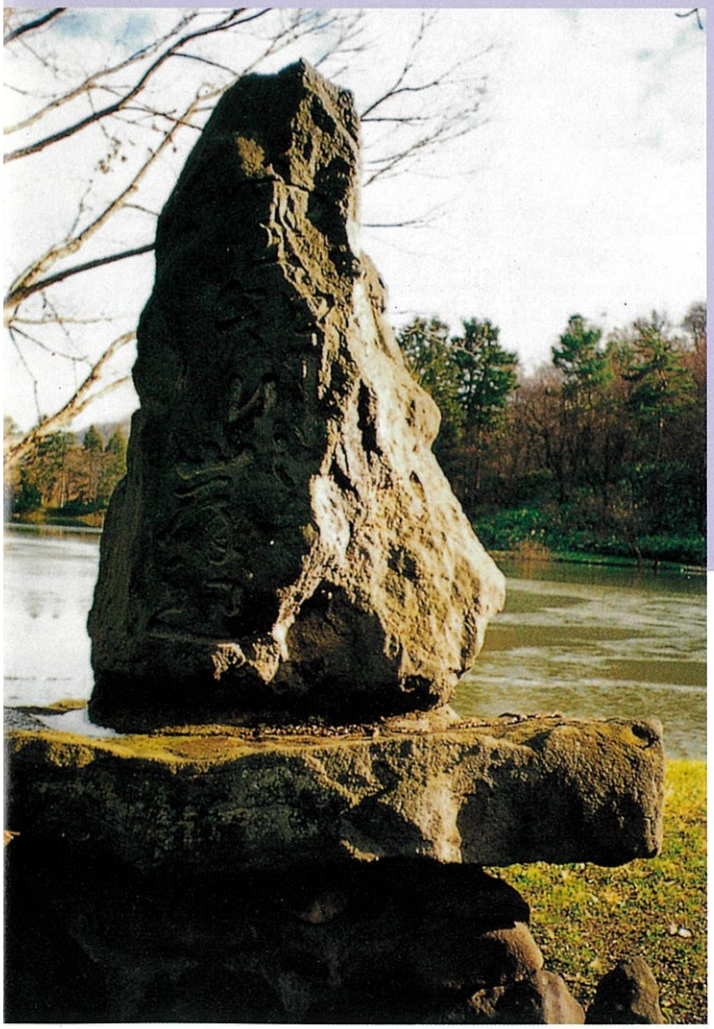
石狩川水系空知川は、北海道のほぼ中央に位置する「虹の映えるまち・赤平」を、歴史的・文化的遺産等ロマンを抱いて、悠久の流れを今日に伝えています。

特に、明治28年9月26日文豪国木田独歩が新天地を求めて、空知太（現砂川市）から空知川の岸沿いへと、歌志内（現歌志内市）より山越えをして辿り着いた場所として「独歩苑」があります。その時の思いを記した【空知川の岸辺】という作品を発表したこの地には、現在石碑が建立（昭和31年9月）され、地域の人々の手により守られており、春には桜花爛漫の下、国木田独歩に思いを馳せた大勢の市民が集います。

市では現在空知川環境整備事業として、「独歩苑」より下流の住友河畔広場までの河畔道遥路の整備を検討しています。

花のまちづくりとの整合を図りつつ、水と緑と人々が調和する新たな河川景観、都市景観づくりをめざしています。

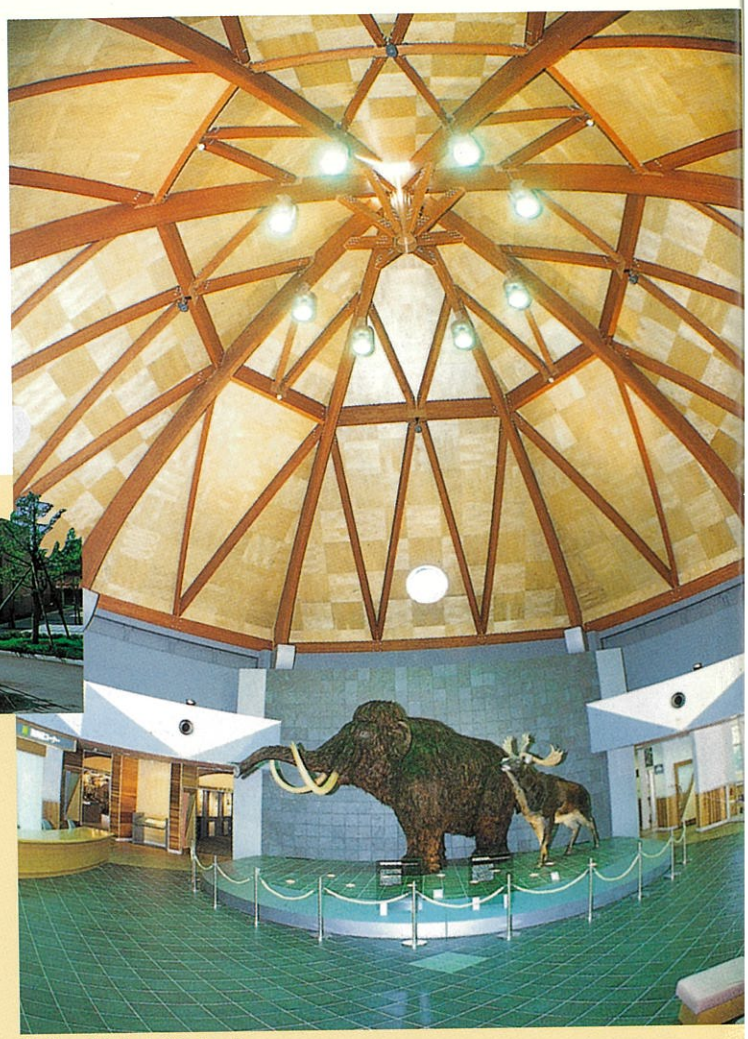
国木田独歩曾遊地



国木田独歩「空知川の岸辺」文学碑

樹齢約200年のミズナラ
（幌岡町の林道）

「ゆめっく館」全景


「ゆめっく館」メインホール

由仁町

緑豊かな地に、巨獣の足音が聞こえてくる
ここは太古のロマンを秘めたマンモスの里

由仁町は明治19年開拓の鍬がふりおろされ、先人のたくましい開拓精神と団結力を持ち、発展を続けている道央を代表する田園都市です。夕張川と由仁川の恵みを受けた肥沃な大地と穏やかな気候条件、そして交通の利便性を生かして、良質な農作物を道内外に供給しています。

昭和11年の秋には、陸軍特別大演習が行われ、昭和天皇がご統監されるためご来町、町内をご視察なされた歴史もあります。伏見台公園には「伏見台聖蹟記念碑」を、三川の御野立所には「三川聖蹟記念碑」を建立し行幸の跡を今に伝えています。

そして、三川町を物語るもう一つの顔―それは日本で最古のマンモスゾウの臼歯と、北海道では初めてオオツノシカの角の化石が発見された事です。歴史的価値の高い化石は、図書館も併設された学習施設「ゆめっく館」に常設展示され、太古のロマンを雄弁に伝えています。

「ゆめっく館」郷土資料室

マンモスの臼歯化石

オオツノシカの角の化石

VIEW POINT
ユンニの湯

由仁はアイヌ語で「ユウンニ（温泉のあるところ）」がなまったものといわれ、由来そのままの名所として利用されているのが、宿泊施設も備えた「ユンニの湯」。目的に合わせて選べる良泉質のお湯と、カナダ直輸入の木材を使用した建物など心と体が温まるくつろぎの空間です。

川と水と共に

秋になると村全体が黄金色に揺れる、純農村、新篠津村。開村から水と闘い続け、泥炭の非力な地を沃野に変えていった、まちの軌跡を辿る。

新篠津土地改良区理事長
沼川改修期成会会長
横山 良治

昭和42～47年の水田区域と国営かんがい排水事業実施状況図

◎村のあらまし

新篠津村の開拓は、1883年（明治16年）月形村樺戸集治監看守長、熊田直之によって、現在の岩見沢大橋の上流にあたる49線北3号付近に初めて開墾の鍬が入れられたことによる。

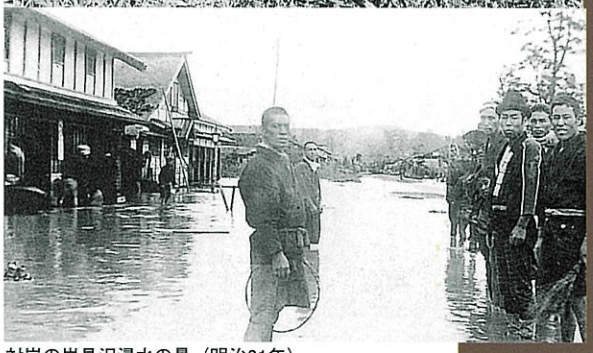
本村の本格的な開拓がはじまったのは、1892年（明治25年）に区画割が完了し、1894年（明治27年）の第1回移民募集以降であった。

当時の新篠津村は、篠津原野植民区画の一部にあって、1896年（明治29年）当時の篠津村（現在の江別市の一部）から分離して、新篠津村となって戸長役場が設置され、1915年（大正4年）二級町村制が施行するとともに、1930年（昭和5年）北村地域から袋達布が編入されている。

村の初期のあゆみは決して平坦ではなく、毎年のように襲ってくる水害等で、開拓者たちの苦労がたえず、離農と入植の交替が激しく、人口も横這いとなり、1945年（昭和20年）ごろまで続いた。その後石狩川の治水事業が進み、篠津地域泥炭地開発事業である篠津運河工事が始まり造田事業が進む中、人口は徐々に増加し、産業は活性化していった。

現在、新篠津村は農業を基幹としながら、田園福祉とコミュニティの思想のもと、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、知的障害者生活施設と授産施設、更に高等養護学校などを誘致し、これら公共施設など環境を生かしたふれあいの里も、今では人口が4、116人となり、全道24村の中で一番の村となっている。

北海道庁植民課員出張の景（植民地区画測量）（明治26年）



対岸の岩見沢浸水の景（明治31年）

◎水との闘い

かつて石狩川は、新篠津村の大地を大きく蛇行して流れており、いま内陸湖になっている篠津湖は、昔の石狩川の流水そのものであるといえよう。石狩川は母なる川でもあり一方では、荒ぶる川でもあった。

本村の水との戦いは、氾濫する石狩川、篠津川との闘いでもあり、治水は新篠津村の願いであった。

開村した1896年（明治29年）に、篠津川が氾濫し、大きな被害をもたらしたが、その2年後の1898年（明治31年）には、石狩川が氾濫し歴史に残る記録的な大災害をもたらした。この年は、春と秋の2回大洪水に見舞われている。この洪水が石狩川との長く辛抱強い闘いの幕開けとなった。

このころ道庁は、北海道治水調査会を発足させ、1899年（明治32年）から、11年間現地調査を行い、その結果をまとめ、1910年（明

治43年）に石狩川第1期治水工事をスタートさせた。だが、1919年（大正8年）異常暖気による、雪解け水で石狩川が氾濫し、家屋、田畑が浸水し、回復する間もなく豪雨が続き、再び石狩川が氾濫して農作物も大被害を受け、明治31年以来の雨量を記録した年であった。

また、1932年（昭和7年）第1期治水工事も終わりに近づいたころ、石狩川の氾濫により大水害に見舞われ、この被害により辛苦の結晶ともいうべき農作物は全く収穫ができず、住民は、食糧難のため道庁から救助米の配布を受けたこともあった。

毎年のように襲ってくる大洪水と戦ってきたが、なかには農業への愛着心は持ちながらも営農が根底から崩されるような災害に精神力を喪失し、転出する者が多かった。

「当時（昭和7年～8年）の大水害を思うに、先祖が木を切り、笹の根を掘り起こして作った作物が一夜にして水に流されてしまい、親が、がっかりして肩を落としている姿が今でも目に映る。今の中学生のころ、高倉にある蒸麦畑の「にほ」が、水に流されていくのを見て、せっかくこれまでにして、もう少しで収穫出来るのにと思った。子供心に石狩川の築堤が早く出来ることを望んだものである」。

このようなことから、1934年（昭和9年）第2期石狩川治水工事がはじめられ、新篠津はこの工事の中心地区として重要な位置を占めており、村民は大きな期待をよせていた。工事は、袋達布の旧河道を埋め立てて締め切る工事から

樺戸監獄創設当時の月形本町通り（明治15年）

はじまり、それから48線の河道の切替え工事と進んでいった。そして堤防、護岸、各支川の工事もそれぞれ施工されていった。特に、本村の中央を流下する篠津川の切替え工事は、戦中の1943年（昭和18年）に着工され、石狩川へ放水する水路（延長1、500m、敷幅5m、切深4・5m）が開削され、増水時にはここから石狩川へ分流させ氾濫を防ぐものとして、同年に完成しており、沿岸地域の洪水対策に大きく貢献をしているのである。

更には、石狩川の捷水路工事によって、曲がりくねっていた村内の石狩川は直線化され大規模な堤防が築かれ、篠津川などの河川も整備されて、水害の不安は次第に解消されていったのである。

本村の稲作における農業用水は、石狩川に水源を求め、更には、整備された篠津川、そして篠津運河の揚水機場で取水し、全村を潤している。

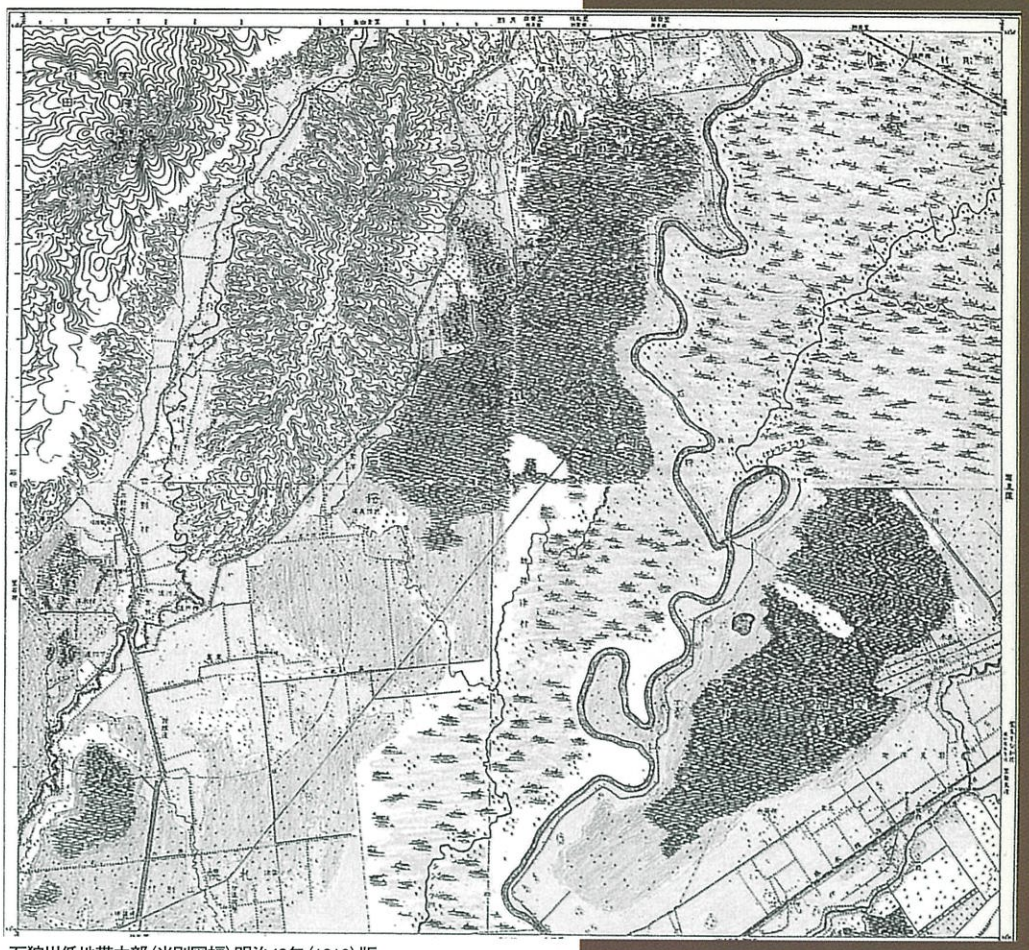
顧みれば、1946年（昭和21年）中篠津、下達布の区域を中心とした造田事業により10アール当り8俵の収穫をあげた。

以来、1952年（昭和27年）に新篠津土地改良区が設立されて造田事業は進められ、いくたの冷災害、水害等にあいながらも、事業に取り組み、1955年（昭和30年）国営事業の着工と相俟って新篠津村全域に広がり、全村4、900haが水田化され黄金色の稲穂がゆれる大地へと姿をかえ、今日の北海道を代表する米どころとしての地位を築いたのである。

◎石狩川の恵み

昔から、人々の生活の発祥は、水系豊かな地域から始まり、民族文化も河川流域で生まれ発展してきたといえる。

新篠津村も歴史的背景のなかで、いろいろ曲折はあったものの、石狩川水系のこの恵まれた自然の限りない恩恵を受けて発展を続け、いまでは、戸当り10・7haの経営面積をほこる全道一の純稲作地帯となっている。



石狩川低地帯中部（当別図幅）明治43年（1910）版

石狩平野の西部、石狩管内の東端に位置し、石狩川に沿って南北にのびる新篠津村には、村内の中央を北から南西に掘削した大用水路篠津運河は、月形頭首工からはじまり、本村北6号より屈曲して流れ、江別市八幡地先の石狩川にそそいでいる。また、村内を流れる河川として篠津川がある。この川は、北から南に縦断して流れており、月形町と当別町青山との町境の月形～厚田を結ぶ道々22号線付近に源を発し、当別町赤ノ沢で支流と合流し、同町中小屋と月形新田の町界に沿って、44線北14号の篠津運河に流れていたが、今は中小屋付近から42線上を直線に切り替えられ、本中小屋から村内に入って縦横に用水化された流れに変わっており、江別市字篠津に至り、石狩川に合流している。

昔この篠津川にそそぐ支流が十数本としるされているが、現在は数本にすぎず、村内では、45線北5号の沼から発して、中篠津で篠津川に合流する沼川のみとなっている。

◎篠津運河

篠津地域は、明治のころから融雪水と降雨による洪水の繰り返される泥炭湿地の低平地帯であるため、排水溝を開削し、水位の低下を図る必要があった。

篠津運河がはじめて掘削されたのは、1896年（明治29年）のことで、物資を輸送するための舟を運行させることと、泥炭地の排水を目的としたものだった。当時運河を掘るのは人力で単に地面を掘り下げただけのものであったため、一度洪水にあうと跡形もなく埋没してしまうなど、十分な成果をあげることができなかった。

その後、幾度か浚渫が行われたが、あまり効

果はでず、そのうちに戦争がはじまると運河は放置され、ほぼその機能を失ってしまった。

戦後、政府は、石狩川下流域の広大な泥炭地を開発することを計画し、1951年（昭和26年）の北海道開発局設置とともに石狩川水域総合開発事業のなかで、篠津原野の排水改良工事に着手した。この工事で篠津運河は大排水路として位置付けられ、延長24km、敷幅14・7mの開削工事は表層の泥炭を「ラダーエキスカベーター」で、下層の砂質土・粘土層は「ポンプ浚渫船」で実施された。

1954年（昭和29年）世界銀行農業調査団が来道、篠津原野を視察した結果、泥炭地開発事業を融資対象に決定、1955年（昭和30年）篠津地域泥炭地開発事業で着手された。しかし全面的に水田単作地帯とする構想が打ち出されたため、運河の利用計画は再検討されることとなり、基幹排水専用としてでなく、用水路としての機能も織込まれ、さらに大河川氾濫の災害防止という目的も加わった大事業であった。

1958年（昭和33年）石狩川の水を篠津運河に導入するため、石狩川本流月形町南方に堤長156m、高さ2・8mの頭首工設置工事が始まり、1963年（昭和38年）に工事が完了した。運河掘削工事も1965年（昭和40年）に完了し、ここに十数年の長年月を要した篠津地域泥炭地開発事業が竣功したのであった。

こうして、整備された篠津運河には、ウグイ、コイ、フナ、ヤツメウナギなどが生息しており、釣師達には最高の釣場にもなっている。

篠津運河

◎川とくらし

北海道の開拓が始まったころ、川は生活に大切な交通路であった。

石狩川沿いに入植した開拓者たちは、自分で大木を伐って丸木舟を作り、日常の移動手段や洪水時の避難や救助用として、欠かせないものであった。また、1887年（明治20年）ごろまで和船である淀川船が走り、民営の鉄船が日用品や農産物輸送に活躍していた。

生活するには、まず水を確保しなければならず、昔の川水は透きとおっていて川に面した地区では、川から水を汲み上げ炊事、洗濯に利用することができた。更に川縁の土地は、沖積土であるため井戸を掘ってもきれいな水を確保できたが、奥に入ると川から水を運ぶのは大変なことで、井戸を掘っても泥炭地特有の茶色い水しか出ないため、それを生活水としていた。

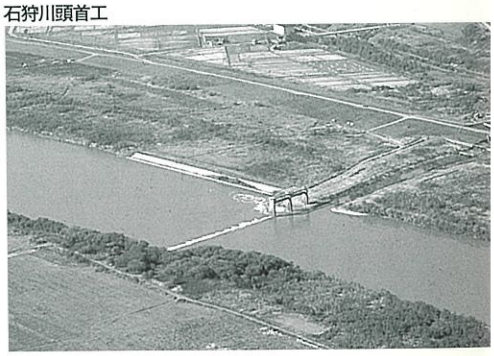
食べ物もイナキビ、アワ、ヒエなどで凶作のときは、笹の実や野エビまで食べていたという。それでも人々は、自然から手に入るものを上手に利用し生活していた。

大正時代を過ぎると人々の生活も少しずつ豊かになり、住居は床に板が張られ、壁は土壁になり板戸や障子も用いられた。そして、明かりも炉の火からランプに代わり、やがてストーブが用いられ燃料は石炭だけでなく泥炭も燃やし暖をとった。

治水、運河などの着工により農業生活も安定しはじめ、文化生活へとあゆみ余裕もでてきた。

今は、石狩川の水空間を利用して、ゆとりある暮らしへと進むなか公園が整備され、色々な施設が作られていった。

この平坦な土地と石狩川、篠津川として篠津運河からの豊かな水と環境に恵まれ、健全で充実した生活を営んでいる。

石狩川頭首工


ニュージーランドの経済改革

名寄河川事務所　所長　浜本　聡

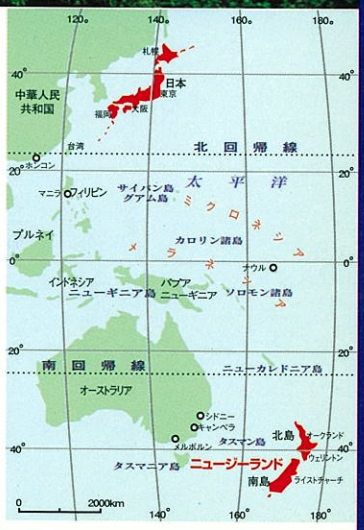
はじめに

平成6年3月より3年間外務省へ出向し、在ニュージーランド日本大使館で経済担当の一等書記官として仕事をさせていただきました。在任中は日本でも有名になりましたニュージーランドの経済改革を、日本にレポートする仕事を仰せつかりましたので、そのさわりの部分をご紹介致します。

本来であれば、「川と人」のタイトルに沿いまして、ニュージーランドの「治水事業」や「流域の人々の生活」について書く事も考えましたが、それよりも現在日本において進行中の「行財政改革(主に官)」や、更にこれと同時に行われるべき「規制緩和、市場原理の導入等による労働生産性の向上(主に民)」を含

む「経済改革」の世界的に大きな流れが何であるかを、説明する事の方が重要と考え、既に約15年前からこの流れに突入し、現在経済改革の最終章を迎えているニュージーランドの事例を紹介する事に致しました。(このため、文章中の写真は本文内容とは一切関係ありません。)

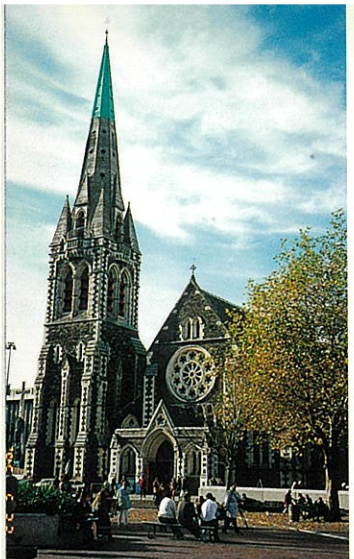
今、日本で話題になっています金融システムの改革（自由化及び情報開示制度）、税制改革、行政改革の細部、通信・運輸やエネルギー部門等における規制緩和、医療保健改革、行政機関の情報開示制度、地方自治体の改革(地方分権とセットの公共サービスを効率的に行うための大規模な市町村合併、企画立案部門と現業部門の分離等)等につきましては、紙面の都合により今回は割愛させていただきます。

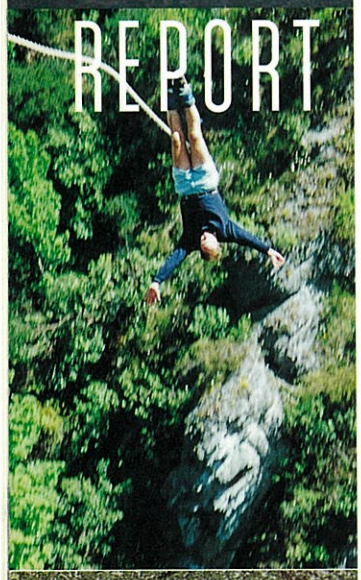


歴史的背景

ニュージーランドは先進国の中では珍しく、第二次世界大戦の戦災を免れ、戦後は将来を嘱望された国でありました。その良い例が、「オール・ブラックスが強いのは、国が豊かで食生活が良く、大きな体を維持できるからだ」とまことしやかな話も聞かれました。この例えが話半分としても、実際、戦前からあった高度なインフラを利用して、この当時としては世界最高水準の生活を営んでいた事は事実です。

国が豊かであったために、かえって痛みを





伴う経済システムの効率化が進まず、政府が大規模な経済構造改革を行う前に行っていた政策は、「(1) 規制により、内外の競争を政府がコントロールする事」や「(2) 輸出補助金や輸出促進税制等により、国内産業を育成する事」でありました。

結局、この様な政策は民間の競争力を弱め、経済的に世界の先進国から取り残される結果となり、更に英国EEC加盟による特恵的な輸出先の喪失（73年）や二度のオイルショック（73年、79年）が引き金となり、経済は先進国の中で「どん底」に落ちてしまいました。

この経済の低迷を挽回すべく、政府は「シンクビッグ・プロジェクト（80年代始め）」と呼ばれる大規模公共事業の実施に踏み切りました。この政策は、オイルショック後のエネルギー自給率向上も目指していたため、水力発電所や天然ガス開発等のエネルギー分野を中心として行いました。財政資金を投入している間は効果がありましたが、やはり民間活力を伴わない経済政策は長続きせず、結局残ったものは巨額の「対外債務」と「財政赤字」の双子の赤字でした。

結局このような政策により国富を食いつぶし、国自体が破産寸前の状態になったため、「84年からの労働党政権」は、「社会システム全体をリストラ」するような激しく大胆な「経済改革」を開始しました。

政党の名前が出てきましたので、ニュージーランドの政治の説明を簡単にさせていただきます。ニュージーランドは、「国民党」と「労働党」の二大政党政治を長い間とり続けていましたが、「国民党」は、主に経営者や農民を支持層に持つ保守的な政党であり、「労働党」は、名前のとおり主に労働組合を支持層に持つ左よりの政党であります。

左よりの政党である「労働党」が、経済改革に着手した背景は、84年前後は財政赤字や公的債務等の累積から、財政主導の景気浮揚策が取りづらい状況にあったため、「国民党」であれ、「労働党」であれ、多くの財政措置を必要としない「制度改革（経済改革）」によって、経済再建に着手せざるをえなかったからでした。

また、「84年当時の労働党政権」は、主として弁護士や大学教授など40歳台前後の若い専門家集団（労組出身者は少なかった）から構成され、この当時の「英国のサッチャー政権」や「米国のレーガン政権」など、規制緩和や市場原理重視の新保守主義的経済政策を指向するものが多く、「徹底した市場原理の導入」が必要であると考えていました。

さらに、国民の痛みを伴う経済改革を行うことが出来た背景としまして、「(1) ニュージーランド政権の一般的な特徴として、首相を中心とする主要閣僚に政治的権限が集中している」、「(2)84年の総選挙が事前の予告なしに抜き打ち的に行われたため、政権を取った労働党は、多くの公約をする事なく勝利し、公約に縛られることなく経済改革に着手できた」が上げられます。

ただ、この労働党政権は、有力な支持母体である労働組合に影響を及ぼすような、労働市場の改革には抜本的に着手する事が出来ず、労働市場の改革は、「90年に政権を奪回した国民党」が打ち出した「雇用契約法（91年）」を待たなければなりませんでした。

ニュージーランドの労働関係の特徴としましては、「(1) イギリスから持ち込まれた職種別の労働組合制度」、「(2) 労働組合への登録制による排他的な管轄権の付与」、「(3) 労働者の組合への強制加入」が上げられ、労働組合の交渉力は、これらの制度や法制に守られ、非常に強いものとなっていました。

これらの制度の問題点としては、「(1) 組合が職能別に組織されているため、雇用者側は、運転手組合や掃除夫組合等、多数の組合との交渉に拘束される」、「(2) 賃金が、同一職種に対して全国一律に適用されるため、営業成績が悪くても、同一賃金や条件に従わなければならない」などが上げられ、この結果、労働組合はひたすら高賃金、労働時間の短縮を求め、労働市場に硬直化が起こり、経済悪化を招く原因の一つにもなっていました。

「84年からの労働党政権時代」においても、幾つかの労働市場改革が試みられましたが、これらの改革は、経済の合理化・国際競争の激化に対応できるだけの実績を示さなかったため、「90年からの国民党政権」は、法制化していた労働組合への強制加入を廃止し、前労働党政権が推進してきた他の自由化政策と同様に、労働関係を個人と個人の私的な契約関係に変更する「雇用契約法」を制定しました。

この法律により大きく変わった事は、「(1) 民間企業におけるリストラだけでなく、公務員のリストラもやり易くなった」、「(2) 中央の労組が交渉の当事者ではなく、単なる交渉の代理人となってしまい、組織率が20%を切る様な事態になった。この結果、組合の影響力は弱くなり、実質賃金は法律制定後の数年間、ほぼ横這いとなった」、「(3) 雇用契約期間限定や時間限定の常勤やパート等、職場の実体にあわせた様々な勤務形態が出てきた」、「(4) 管理職（マネージャークラス）は個人契約による能力給、非管理職は従来どおりの集団交渉による契約に移行した」でありました。

以上のとおり、「84年に始まった労働党の経済改革」は、「90年からの国民党政権」に引き継がれ、「雇用契約法の成立」をもってほぼ終了し、現在は、恒常的な黒字を出せるほど財政の健全化がなされています。今後は、一部受益者負担を導入したために国民の反発を招いている医療保険制度改革、福祉制度改革が議論の中心になってくると思います。

行政改革

ニュージーランドの行政改革の場合、内閣がある一定の基本方針や大枠を決定した後、財務省（＝ほぼ大蔵省）と国家行政院（＝総務庁＋人事院）が協調して、例外を殆ど作らずに省庁再編案の肉付けを行ってきました。

その具体的な基本方針としては、「(1) 小さな政府（現業部門の分離）」、「(2) 行政サービスの効率化、及びその効率化目標が具体的に設定出来るような行政組織全体（地方自治体を含む）の再編」、「(3)大臣と次官の責任範囲を明確化（大臣は、政策目標達成に必要な成果を具体的に指定し、次官は、大臣との契約で指定された成果を生み出す責任を負う。）」、「(4) 公務員制度に公募制、契約制、任期制、業績評価制等を導入し、職員数の大幅な削減等の合理化を実施」、「(5) 中央政府を含め、各組織毎のマネージメントに企業会計制度を導入した」などが上げられます。

1 小さな政府（現業部門の分離）

行政改革後のニュージーランドの政府機関は、大別すると次の三種類の組織に分類されます。

中央政府(Central Government)
国有企業(SOE＝State Owned Enterprise)
クラウン・エンティティー(Crown Entity)

①中央政府（Central Government）

ニュージーランドの行革では小さな政府を目指し、「国営の現業部門」は出来るだけ「国有企業化（株式を政府が所有するだけで、営利最優先の一般企業と何ら変わりない）」、「民営化（国有企業の次の段階。資産価値が高まった段階で株式が放出され、売却益は財政赤字の償還に使われた）」を行い、更に「国有企業化」には馴染まないが、その組織の一部を市場原理にさらして、効率化を図るべきと考えられた組織は、後述するクラウン・エンティティーに改組しました。

結局、政策提言・立案とその実行のためのコーディネーションや政府予算配分機能だけを担当する組織が中央政府として残り、国家公務員数も85,000人から35,000人に激減しました。

②国有企業（SOE＝State Owned Enterprise）

受益者負担の原則で運営可能な国営事業は、殆ど全て「企業化」され、更に政治的問題がクリアされた「国有企業」から順に「売却民営化」されていきました。すなわち、国有企業とは、民営化を前提として企業化まではなされた国営事業が、公共性が政治問題化し、政府所有として止まった企業です。

企業化された組織の特徴としましては、国営時代のような財政支援はなくなり、独立採算で経営を行わなければならなくなりましたので、大々的なリストラが行われ、営利最優先の組織に生まれ変わったことです。ただ、ニュージーランドの場合、財政支援がないと言う事は、倒産の可能性があると言う事で、実際に国有企業であった開発銀行が、バブル期の不動産投資の失敗から経営不振に陥り、倒産させられました。

公共性が高いという政治的判断で、国有企業で止まった事例としましては、「郵便のNZポスト」や「発電のECNZ、コンタクト・エナジー」等があり、民営化までいった事例としましては、「通信のテレコムNZ」や「郵貯」等があります。なお、民営化後のテレコムNZは、ニュージーランドの最優良企業として有名になっています。

③クラウン・エンティティー（Crown Entity）

クラウン・エンティティーとは、国立病院や国立研究所のように、政府から与えられた行政目的と、ある程度の利益追求の両方が求められている幅広い概念をもった組織です。その共通する運営方法と形態は次のとおりです。

—多くの場合、所管省庁によって任命されたボードと呼ばれる委員会によって最高決定がなされ、クラウン・エンティティーが実務を担う。

—与えられる予算(input)と、そこから期待される成果(output)に関して、毎年所管省庁の事務次官とクラウン・エンティティーの長が契約を交わす。クラウン・エンティティーの長の報酬は、期待される成果の達成度合いによって左右される。

—クラウン・エンティティーの長には、期待される成果の達成に責任を持たされる代わりに、手段・投入資源（資金調達、人材調達、報酬、外注等）に関しては自由な裁量権が与えられる。

—民間部門に競争者がある場合、それらとクラウン・エンティティーとの間に競争原理が働くようにシステムの工夫がなされている事が多い。

—中央省庁と同様に、マネージメントについては、企業会計の原則に基づき、損益計算書・貸借対照表等の報告が求められている外、おのおのクラウン・エンティティーを規制する立法によって、所管省庁に対する様々な種類の報告が義務付けられている。

2 省庁再編の具体的事例

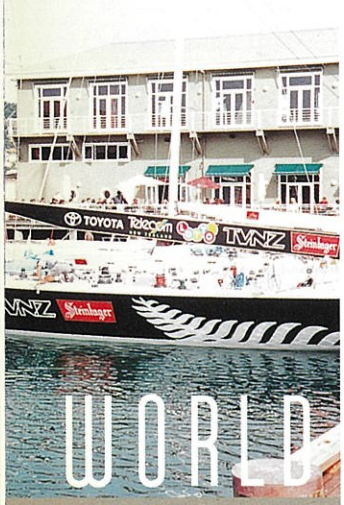
省庁再編の具体的事例を大ざっぱに分類すると、次の4つのタイプに分けられます。

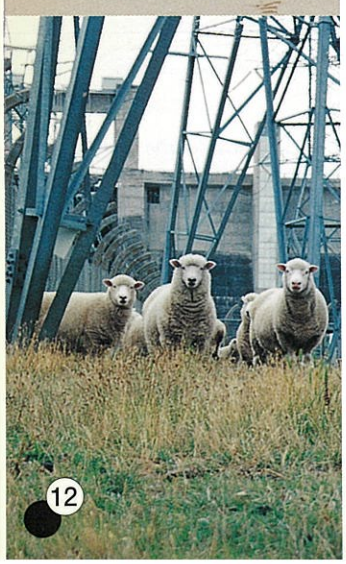
—全く手つかずの「財務省・外務省タイプ」
—役所は大きく再編されたが、職員の実質的なリストラは行われなかった「運輸省タイプ」
—完全にリストラされた「郵政省タイプ」
—前記2タイプの中間で、「企画立案部門（組織が大きく再編された）」と「現業部門（リストラされた）」の2つに分割された「公共事業省タイプ」

①運輸省タイプ

ニュージーランドの運輸省は、日本の運輸省とは異なり現業部門を有しておらず、全く純粋に規制を司る官庁でした。このため、組織の再編は行われましたが、実質的なリストラは殆ど行われませんでした。

すなわち、「中央官庁としての運輸省に残った部分」は、「総合交通体系の立案や航空交渉等」だけですが、「道路交通規制は警察へ」、「その他の陸海空の運輸規制はクラウン・エン





WORLD REPORT

ティティー化」し、職員の身分は国家公務員から民間人に変わりましたが、実質的な人員削減は行われませんでした。ただ、「効率化を達成するための組織の再編」及び「規制業務部門への企業会計制度導入による収益の向上」は強く求められました。

②郵政省タイプ

ニュージーランドの郵政省は、日本の郵政省と同様に、郵便業務、郵便貯蓄銀行業務、通信業務を行ってきましたが、殆どの行政サービス部門において、民間に同等のサービスが存在するため、国営で行う事の意義を失い、行政改革の流れの中で完全にリストラされました。

通信業務は「テレコムNZ」として、日本のNTTと同様に民営化されました。

郵便業務は、政治的配慮から国有企業（NZポスト）として残されましたが、郵便事業における政府の関与は全くなくなり、民間の宅配業者と全く同じ土俵で競争しなければならなくなりました。ただ、企業化された当初は、まだ民間の宅配業者と競争できるような合理化が進んでいなかったため、民間業者のはがき配達参入規制（NZポストがはがき1枚40セントのところ、民間業者は80セント以上の料金設定をしなければならなかった）をしてました。しかし、この規制も、NZポストの合理化が進み、昨年撤廃されました。

郵貯部門は、エレクトリックバンキング等の発達により、田舎でも都会と同じよう金融サービスが受けられるようになった事や、金融の自由化により国債の主な買い手としての独自性が失われた事で、結局、オーストラリアの銀行に売却されてしまいました。

3 国家公務員制度

改革前は、ニュージーランドも日本の人事院制度と同様の制度があり、国家行政院（日本の人事院に当たる）において、同一職種同一賃金を設定していました。また、民間とは異なり国家公務員は終身雇用制度が維持されており、普通は年金支給年齢の60歳まで勤めていました。

しかし、改革後はこの制度が完全に崩れ、国家行政院は各省庁の次官級ポストの人事管理（採用・業績評価・給与査定）のみを行うだけとなり、それ以外の国家公務員は、それぞれの省庁が、事務の効率化・合理化を最優先に、雇用条件を決定することが出来るようになりました。この結果、大規模なリストラ（人員削減、パートへの移行）が行われ、残った国家公務員も終身雇用ではなく、通常1年ないし2年更新の個々人の雇用契約に改められ、更新の度毎に業績評価をされる事となりました。

ただ、この個人契約への移行は完全に行われたわけではなく、管理職（マネージャークラス）は個人契約、非管理職は組合を窓口とした団体契約に二極化していきました。基本的には個人契約であるため、隣に座っている人がいくら貰っているかもわかりませんし、ましてや、大卒初任給いくらなどと言う俸給表みたいなものもなくなってしまいました。

また、昇進も、日本のように黙っていても上がる制度にはなっておらず、より勤務条件のよいポストの公募があった時に、自分で申し込まなければなりません。通常、マネージャークラスの公募は、土曜日に大衆紙の求人広告欄に掲載されますので、同じ役所の生え抜きだけでなく、民間や他省庁の人間とも争うことになります。

事務次官でさえ、このような採用システムを用いているため、現在の事務次官の半分以上が民間人となっており、更に驚くことには、一部の事務次官を除いて国籍条項がないため、外国人の事務次官が存在しています。

最後に

これからは、今までのような経済発展は望めない中、「財政赤字先送りの構図」や「今後の少子化、高齢化社会」、「年金組と現役組の社会保障費の不公平な負担」などを考えますと、早く日本も行財政改革を行わなければならないような気がします。

先進国の経済改革の進捗状況を見てますと、ニュージーランドは80年代前半まではどん尻グループの中にいましたが、現在では英国や米国と同様に、先頭集団の中にいると思います。更に、日本より後ろにいた韓国やインドネシアも国家経済の破綻から、IMF等の資金支援を得るために、抜本的な経済構造改革を進めています。

それに対して、日本の場合、世界最大の債権国、個人資産1,200兆円の余裕のために経済の構造改革が進まず、経済改革の競争だけを見ると、先進国の中では「どん尻グループ」のままでいるような気がします。

ただ、ニュージーランドの改革は、公務員も大々的にリストラするような、世界で最も極端な経済改革として成功をおさめましたが、日本の雇用環境とはかけ離れており、そのまま参考にする事は出来ませんが、その根底にある基本的な考え方については大いに参考になると思います。

また、極端さが売りでありましたニュージーランドの改革でさえも、財政黒字が恒常化した現在、これ以上の国民の痛みを伴う改革は必要ないという世論の強まりから、改革推進の振り子は反対方向に戻されつつあるようです。

帰国直後は、自分が見てきた社会と、日本の現実のギャップに戸惑いましたが、昨年の社会の変化を見ますと、日本も「自己責任と情報公開」、「消費者（納税者）中心の社会」、「市場原理（規制緩和）」をキーワードとする世界の流れに突入し始めた様な気がします。

'98躍動!石狩川

'98年度 石狩川流域イベント一覧

EVENT INFORMATION

※本資料は3月末現在のものです。
日時や場所等の変更がある場合も考えられますので、
お出掛けの前にご確認下さい。

季節を映すもの、それは川です。春夏秋冬、川は様々な表情を見せてくれます。
そして今、4つの季節を謳歌する、川を舞台にした様々な催しが活発化しています。
川を知るということは、川に触れること。
人が集まる石狩川はいつにもまして、輝いて見えます。
さあ、母なる石狩川に逢いに出掛けましょう。

石狩川上流エリア

イベント名	実施時期	実施場所	内　容	問い合わせ先	
消防フェスティバル	5月中旬	旭川市石狩川リベライン旭川パーク(旭橋下流)	火災・防災体験コーナー、梯子車搭乗体験、緑日コーナー、コンサート	旭川市消防本部	☎0166(23)4556
ジャーマンアイリスまつり	6月中旬	旭川市石狩川金星橋上流河川敷	コンサート、ビンゴゲーム、オークション、福祉施設作品販売	旭川市水みどり公園課	☎0166(26)1111
石狩川フェスティバル	7月中旬	旭川市石狩川永山橋上流河川敷	魚つかみどり、カヌー体験試乗会、一本橋渡り、ミニ列車	旭川北商工会	☎0166(57)3352
北海イカダ下りin空知川	7月20日	山部大橋から富良野大橋	イカダ下り	くまげら内　森本　毅	☎0167(39)2345
北海タイムス花火大会	7月24日	空知川河畔	北海へそ祭り協賛事業花火大会	北海タイムス社旭川本社	☎0166(23)4171
旭川大雪ツーデーマーチ	7月下旬	旭川市石狩川河川敷	歩こう会(水辺の散策)	旭川歩こう会	☎0166(23)1278
道北スカイスポーツフェスティバルinとうま	7月下旬	上川郡当麻町石狩川(当麻スカイパーク)	無料体験搭乗(モーターグライダー・熱気球・小型飛行機)デモフライト	当麻町商工観光課	☎0166(84)2111
愛別水と緑のまつり	8月2日	愛別ダム湖を活用	ダム見学、水と緑のウォークラリー、ニジマスのつかみ取り、釣り、カヌー体験試乗	愛別町企画課	☎01658(6)5111
花火inKAGURA	8月14日	旭川市美瑛川両神橋上流河川敷(せせらぎ公園、見本林)	花火、梯子車搭乗体験、ミニ四駆レース、緑日コーナー、ライトアップ	旭川南商工会青年部	☎0166(61)3661
旭川健康マラソン全道大会	9月上旬	旭川市石狩川河川敷	マラソン	旭川走ろう会事務局	☎0166(48)6268(山内　史記子)
旭川市民ニジマス放流釣の祭典	9月中旬	旭川市忠別川神楽岡公園河川敷	放流、釣り会	旭川釣会連盟事務局	☎0166(54)4664(中央警備保障(株)内)
不動産の日「たくけんウォーク」	9月23日(秋分の日)	旭川市石狩川河川敷	歩こう会、抽選会	実行委員会事務局	☎0166(39)2323
こたんまつり	9月23日(秋分の日)	旭川市石狩川神居古潭河川敷	カムイノミイナウ式、アイヌ古式舞踊、フォトコンテスト、特産品販売	旭川市商工部観光課	☎0166(26)1111
カムイ・チェップ・ノミ	9月下旬	旭川市石狩川秋月橋下流河川敷	神の魚"サケ"を迎える儀式、回帰を願う市民交流会、石狩鍋販売	事務局　関口　隆嗣	☎0166(62)1243
旭川マラソン大会	10月10日(体育の日)	旭川市石狩川河川敷	マラソン	旭川走ろう会事務局	☎0166(48)6268(山内　史記子)
オープンカナディアンカヌーレース大会	10月10日(体育の日)	旭川市石狩川永山橋～旭橋	カナディアンカヌーレース	旭川カヌー倶楽部事務局(エム スタジオ 丸山)	☎0166(35)6710

石狩川下流エリア

イベント名	実施時期	実施場所	内　容	問い合わせ先	
支笏湖湖水開き	4月上旬	千歳市支笏湖温泉	安全祈願祭、ヒメマス稚魚1,000匹放流、遊覧船無料招待	支笏湖まつり実行委員会	☎0123(24)8818
さけ稚魚放流	4月中旬	札幌市豊平川河川敷	サケの稚魚(5,000匹)を市内東白石小学校の児童が放流	札幌市東白石小学校	☎011(864)0480
市民探鳥会マガンを数える会	4月下旬	美唄市宮島沼	日本最北端のマガンの寄留地。マガンをみんなで数える	美唄市教育委員会生涯学習課	☎01266(2)3131 内線:2723
パレオCUP日刊スポーツ春さわやかマラソン	5月5日(こどもの日)	札幌市豊平川河川敷	マラソン	日刊スポーツ新聞北海道本社	☎011(242)3940 担当:佐藤
'98 総合治水フェア	5月下旬	札幌市・石狩市	総合治水フェアパネル展、親子現地見学バスツアー	石狩川開発建設部計画課第2計画係	☎011(621)1541 内線:3295
アコムさっぽろ祭り市民マラソン	6月14日	札幌市豊平川河川敷	マラソン	スポーツインジャパン	☎011(823)0102 担当:塩崎
鮎の放流	6月中旬	札幌市豊平川河川敷	アユ(30,000匹)の放流	豊平川鮎の会	☎011(886)3196
石狩川リバーセイリング	6月中旬～8月中旬	江別市石狩川内水面	ヨットにて川のぼり、川くだりを楽しむ体験講習も楽しめる	江別ヨットクラブ	☎011(382)4141 内線:280
ツール・ド・北海道メモリアル札幌大会	7月12日	札幌市豊平川河川敷	自転車競技	ツール・ド・北海道協会	☎011(222)5922 担当:大山
桂沢湖水まつり	7月の第3週	三笠市桂沢湖畔	桂沢湖畔にて各種イベント、花火大会の実施	桂沢湖水まつり実行委員会	☎01267(2)3181 内線:326
あかびら火まつり	7月17日～7月19日	赤平市空知川平岸地区河川敷	川下り、花火大会	赤平市役所商工労政観光課観光係	☎0125(32)2211 内線:347
道新納涼ペーシェント花火大会	7月17日	札幌市豊平川河川敷	花火大会	北海道新聞社	☎011(210)5732 担当:小梶
さっぽろ川まつり	7月中旬	札幌市豊平川河川敷	水生生物調査体験、水環境コーナー、イカダ体験、河川広報映画観賞、川コンテスト、救助公開訓練	さっぽろ川まつり実行委員会事務所	☎011(581)3235
豊平川イカダ下り	7月中旬	札幌市豊平川	手作りイカダ下り大会	豊平川イカダ下り実行委員会	☎011(231)2400
支笏湖湖水まつり	7月中旬	千歳市支笏湖温泉	花火大会の実施、灯籠流し、支笏湖鼓笛隊パレード、各種ステージイベント	支笏湖まつり実行委員会	☎0123(24)8818
千歳川道新花火大会	7月24日	千歳川インディアン水車公園	千歳市民夏まつりと賛同し観光行事としておこなうもの	北海道新聞社事業局企画開発部	☎011(210)5732
豊平川・川中島網引き大会	7月25日	札幌市豊平川河川敷	網引き	中の島地区町内会連合会長	☎011(822)1337 担当:富田
'98 ないえこども川まつり	7月25日	奈井江町奈井江川百年橋河川敷	ヤマメの放流、ニジマスのつかみどり、ゲームコーナー、露店等	奈井江町役場建設課管理係	☎0125(65)2111 内線:115
ダム流木差し上げます	7月25日	札幌市定山渓ダム	ダム流木の提供	石狩川開発建設部豊平川ダム統合管理事務所	☎011(583)8110 担当:中村
かなやま湖太陽と森と湖の祭典かなやま湖湖水まつり	7月25日・26日	南富良野町かなやま湖畔	花火大会、カヌーレース、ニジマスつかみどり、歌謡ショー、テレビキャラクターショー	石狩川開発建設部金山ダム管理所	☎0167(54)2131
金山ダム見学会	7月25日・26日	南富良野町金山ダム	中空重力式ダムの堤体公開、ダム施設の見学	石狩川開発建設部金山ダム管理所	☎0167(54)2131
ラブリバー砂川' 98 夏まつり	7月25日・26日	砂川市石狩川砂川遊水地	市民踊り、御輿担ぎ、もちつき、砂川納涼花火大会、よさこい(5チーム)・商工フェスティバル	砂川市役所観光課観光係	☎0125(54)2121 内線:353
森と湖に親しむ旬間行事漁川ダム1日所長	7月下旬	恵庭市漁川ダム管理所及びその周辺	任命式及びダム施設パトロール、モーターボートによるパトロール森林浴	石狩川開発建設部漁川ダム管理所	☎0123(33)7107
千歳市民夏まつり	7月下旬	千歳川河畔	千歳川河畔で行灯、竿灯の展開、直水・円水型の噴水ライトアップ、蛍の放流、花火大会等	千歳市商店街振興組合連合会	☎0123(26)0759 委員長:脇　政志
漁川ダム親子見学会	7月下旬	恵庭市漁川ダム管理所及びその周辺	ダム施設見学、凧あげ、風船あげ	石狩川開発建設部漁川ダム管理所	☎0123(33)7107
第8回 びばい湖ダムまつり	7月下旬	美唄川美唄ダム湖を活用	釣大会、写生会、歩こう会、ダム見学、自然を親しむ会	美唄市商工労働課	☎01266(3)0112
つきがた夏まつり	7月下旬	月形町偕楽公園	人盆踊り・ビンゴゲーム・農産物即売会	つきがた夏祭り実行委員会	☎0126(53)2321
タイムス全国花火大会	7月下旬	札幌市豊平川河川敷	花火大会	北海タイムス社	☎011(231)0131 担当:西原
第4回 北海道森と湖に親しむ集い	7月下旬	札幌市定山渓ダム	コンサート・水と緑の体感広場・体感ツアーなど	石狩川開発建設部豊平川ダム統合管理事務所	☎011(583)8110 担当:中村
川の自然観察	7月下旬～8月上旬	札幌市 外	水生生物調査簡易水質試験	石狩川開発建設部管理課	☎011(621)1541 内線:3365
道立公園朱鞠内湖湖水祭り	8月1日・2日	幌加内町朱鞠内湖畔	コンサート、カラオケ、盆踊り、水上網引き大会	幌加内町観光協会	☎01653(5)2380
'98 朝日新聞花火大会	8月7日	札幌市豊平川河川敷	花火大会	朝日新聞北海道広告部	☎011(281)2131 担当:安部
第47回 深川納涼花火大会	8月上旬	深川市石狩川河畔	深川納涼花火大会	北海道新聞社深川支局 市役所	☎0164(22)2838 ☎0164(26)2228
'98 定山渓かっぱ祭り	8月上旬	札幌市定山渓温泉街	花火大会、かっぱ大群舞パレード、かっぱ川下り	定山渓観光協会	☎011(598)2029
石狩川河畔花火大会	8月上旬	石狩川河口橋下河川敷	2尺玉と水中スターマイン	石狩市観光協会	☎0133(72)4611
金刀比羅治水神社例大祭花火大会	8月上旬	滝川市空知川河川敷	花火大会の実施	金刀比羅治水神社例大祭実行委員会	☎0125(22)1212
えにわ夏祭り納涼盆踊り大会	8月未定	恵庭市漁川河川敷	ステージゲーム、仮装盆踊り大会	恵庭青年会議所	☎0123(32)0196
第5回夕涼みマラソン大会	8月22日	札幌市豊平川河川敷	マラソン	サンシャインスポーツクラブ	☎011(221)3411 担当:橋本
水質事故対策訓練	9月上旬	岩見沢市幾春別川	水質事故対策訓練、簡易水質試験実演、水質事故対策資材展示	石狩川開発建設部事務局企画課	☎011(621)1541 内線:3390
びばい百万凧まつり	9月上旬	美唄市石狩川中村農場築堤河川敷	凧あげ競技大会、愛好家による凧の模範演技等	美唄観光物産協会	☎01266(2)3131
第13回 豊平川サーモン駅伝	9月15日(敬老の日)	札幌市豊平川河川敷	駅伝	スポーツインジャパン	☎011(823)0102
インディアン水車祭り	9月中旬	千歳川インディアン水車公園	サケ・ヤマメ等の釣り堀、吹奏楽・バンド演奏等のステージ、サケ鍋の賞味	実行委員会事務局	☎0123(27)6418
第23回 札幌マラソン大会	10月4日	札幌市豊平川右岸コース	ハーフマラソン・10Kマラソン	札幌市スポーツ振興事業団	☎011(214)4666
桂沢紅葉まつり	10月11日	三笠市桂沢湖畔	桂沢湖畔で紅葉ライン探勝会、ニジマス、ヤマメの釣り堀、桂沢湖での釣り大会	桂沢紅葉まつり実行委員会	☎01267(2)3181 内線:325
第10回 健康マラソン	10月10日(体育の日)	札幌市豊平川河川敷	マラソン	サンシャインスポーツクラブ	☎011(221)3411 担当:大野
支笏湖紅葉まつり	10月10日(体育の日)	千歳市支笏湖温泉	支笏湖小学校鼓笛隊パレード、味覚汁の賞味、秋の支笏湖バザーと各種イベント	支笏湖まつり実行委員会	☎0123(24)8818
第19回 北海道ロードレースマラソン大会	10月25日	札幌市豊平川河川敷	マラソン	北海道マラソンクラブ	☎011(581)4302 担当:佐々木
'98 さっぽろさよならマラソン	11月29日	札幌市豊平川河川敷	マラソン	スポーツインジャパン	☎011(823)0102

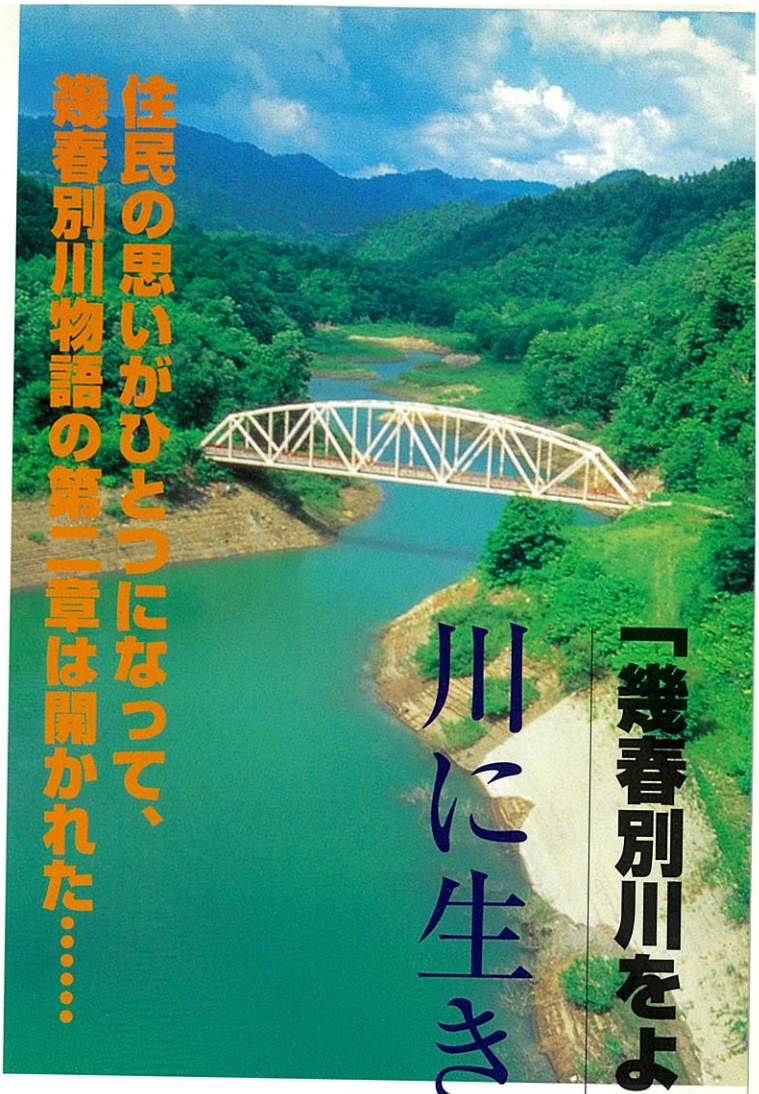
「幾春別川をよくする市民の会」

川に生きる

◎会　　長　嵯峨義輝さん
◎副 会 長　赤間由美さん
◎事務局長　真山秀樹さん

事務所/岩見沢市役所企画財政部
ふるさとづくり推進室
☎(0126)23-4111

第5回



住民の思いがひとつになって、幾春別川物語の第二章は開かれた……

上流に炭鉱があったため、水が黒ずみ、およそ1世紀以上もサケが上った記録のない川がありました。そして今、この川は、街づくりの主役としてたくさんの住民が集う場に蘇りつつあります。

サケを発端に、市民の会が生まれた。

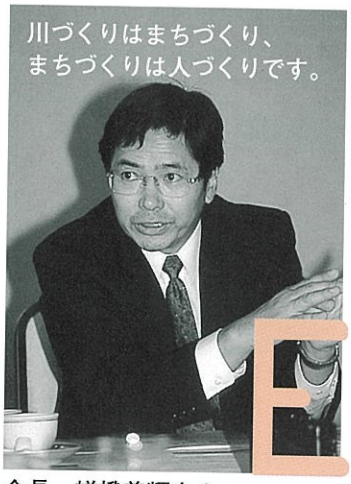
嵯峨　義輝さん（以降、敬称省略）

幾春別川は、夕張山地の幾春別岳を水源に、三笠市、岩見沢市を経て北村で石狩川に合流する河川です。明治20年代から上流の三笠市で炭鉱が操業し、当時の幾春別川は炭塵で黒く濁っていました。それが、平成になって炭鉱が閉山するとどんどんきれいになった。そして平成3年、市民が幾春別川にサケが上ってきたのを発見したんです。ほぼ1世紀にわたってサケが上った記録のない川に…。

"あの黒かった幾春別川が、サケが上るほどきれいになった"と感慨にひたると同時に自然の回復力や逞しさに感動を覚えました。

このことをきっかけに2、3人の「サケをよみがえらせる市民の会」ができ、カム・バックサーモン運動の気運が高まり、平成5年、幾春別川のさらなる浄化と河川環境の改善を目指して「幾春別川をよくする市民の会」を、22名で始めました。

じつはサケが帰ってきたのには伏線がありまして、岩見沢市内にある小学校のあるクラスの先生と生徒達が自然学習として自発的に稚魚を幾春別川に放流したんです。そのサケが4年たって戻ってきたというわけです。



会長　嵯峨義輝さん

赤間　由美さん（以降、敬称省略）

会が発足した当時は、稚魚を飼育して、放流して、そして帰ってくる事だけを楽しみにしていました。そのうちに、川に携わる色々な活動はないのかという事で、ほかの事業が増えてきました。

初めのうちはマニュアルも形もありませんでしたから、皆で築きあげてきました。サケも育てましたが、この会も育ててきたというのが実感です。今では子供達も自分から積極的に参加して、意見を述べます。サケの飼育・放流活動は、1校の小学校の試みをきっかけにしながらどんどん広がり、今では72カ所の教育機関、事業所が参加するまでになりました。今から考えると、サケを発端に全てのタイミングが重なって、みんなの思いがひとつになったんですね。

様々な世代をつないだ様々な活動

真山　秀樹さん（以降、敬称省略）

市をあげて取り組んでいる「サケの飼育・放流活動」はもはや幾春別川のシンボリックなものとなりましたが、それ以外でも会としては様々な活動に取り組んでいます。

「幾春別川リバーサイドチャリング」は、幾春別川沿いを自転車で、石狩川合流点まで走るというものです。到着後は野外炊飯や魚釣り、水遊び等、好評をいただいている事業です。

また、8月7日の「石狩川の日」にちなみ川の中と川辺のゴミを拾う「クリーンアップ作戦」や、平成6年から5ヶ年計画で予定している「緑の回廊づくり事業」の中の市民植樹などには、

たくさんの人達が参加してもらえるようになりました。

それから新たな試みとして、平成7年には、幾春別川の「消火用水護岸工事」に伴う旧河川跡の公園化についてのワークショップを開きました。町内会の人達や小学生など地域の住民を4つに分け、自由に意見を述べてもらい、これらの声をまとめたものを国に提出しました。会としてはこのワークショップを契機に町内会や団体会員が加入し、平成9年6月末現在で、4,294名の大きな会になりました。

ワークショップの中では、子供達の構想やデザインする力が素晴らしかったですね。

赤間 ワークショップでは、地域の方達や利用する方達がどんな思いを持っているのかを知りたいという考えもありましたが、参加意識を持たせることが大きな狙いでした。公園ができた後、自分達のものだという思いを持って利用したり、維持、管理してくれるのではないかということです。

嵯峨 ワークショップを開いて感じたんですが、各世代の人々がいて、その中でも今の子供達は"川に行ってはいけない"といわれて育った世代です。普段"そばにいってはいけない"と言われていたから逆に、川に対する思いがあったんでしょう。今回のワークで、今までの色々な思いが溢れ出て、斬新なアイデアにつながったんでしょうね。

一方で昔、川で遊び、川の楽しさも恐ろしさも知り尽くしている世代がいます。しかし今では離れてしまった。

お年寄りのなかには川をどうこういうのは、行政の仕事だという考えの方もいましたが、活動を一緒にやっていく中で、川は皆が一緒に作っていくものなのだという意識にかわっていきましたね。

ボランティアを通して広がる子供達の可能性

赤間 川に携わる様々な活動を通して、子供達は変わっていきました。

花を植えることでも最初は誘っていましたが、その時の子供達が中学生になって、今では自分から"何かあったら教えて"と声をかけてくれますし、積極的に参加してくれます。自分達が主体者として関わりたいという気持ちがひじょうに強くなっていますね。

ボランティアに参加した子供達は、たぶん一生そういう考えを持ち続けるでしょうし、それが会の財産ですね。

流域全体で取り組む、まちづくりとして…

真山 会では今、文化的な拡がりを目的に、幾春別川の過去、現在、未来をまとめた「幾春別川物語」という冊子の編集をしています。古くから住んでいる人達には当時の思い出を、子供達には未来に向けた夢や思いを語ってもらっています。

自分達が知らない時代のことを、一度振り返る意味でも文章としてまとめることは大変意味のあることだと思います。この本は3月発行です。

また、今年度からは岩見沢市単位ではなく、三笠市と北村を含めた流域全体の会を発足する予定です。上流や下流の垣根を越えた、流域が一体となった幅の広い事業ができると思います。

もう岩見沢市だけの問題じゃないですから…。流域市町村のまちづくりとして、ウォーターフロントという位置付けで事業をバージョンアップしたいですね。

赤間 流域市町村の人達との交流は、川につないでもらって実現したことです。これからは水と緑と人をつないでもらいながら、まちづくり、文化づくり、環境づくりというものを進めていければと思います。川は直接関わる場所ですから、自分達の場所、自分達の問題です。

そういうものを含めてこれから考えなければならないのは福祉との関係です。ひとつひとつの事業がどのように福祉に関わっていくのか、また関連させていくのか、ということを考えていきたいと思います。

副会長　赤間由美さん

事務局長　真山秀樹さん

嵯峨 私はまちづくりとは、まちについて考える人が1人でも多く増えることだと思うんです。私にとってこの会は、川をひとつの切り口としたまちづくりの団体だと思っています。

たとえば公園を造ったり、植樹などに関わることで、まちづくりについて考える人を1人でも増やしていく―

岩見沢市民全体がそうなってくれれば、すばらしい街になるのではないでしょうか。

川に関心のなかった住民に、"川は私たちのもの、一緒にやりましょう"と説得を続けた嵯峨さん、実はすべてのきっかけになった、一番最初に稚魚を子供達と放流した先生こと赤間さん、そして未来を冷静に見つめながら流域一体のまちづくり構想を練る真山さん。

たくさんの努力と苦労とそして知恵を持ってここまできたはずですが、"楽しいからやっているんだよ"と口を揃えます。

流域の未来を担う有志達はどこまでも頼もしい。

豊平川 洪水 危機管理検討会発足

平成9年6月5日、建設大臣より河川審議会に「新たな水循環・国土管理に向けた総合行政のあり方について」に対して諮問が行われ、同審議会において「危機管理小委員会」が設置されました。

危機管理小委員会は、大洪水による被害を最小限に喰い止めるための、災害発生後対策も視野に入れた、危機管理対策の確立に向けた課題について検討するため、設置することが承認されたものであり、ハード面の対策とともに、災害に関する情報の提供や関係機関との連携の強化等のソフト面での対策の充実等の危機管理対策の確立に向けた課題について、審議を進めることとなっており、北海道開発局においても豊平川をモデル河川として検討を進めることとしました。

「豊平川洪水危機管理検討委員会(委員長：藤田睦博北海道大学教授)」は、豊平川が洪水により氾濫した場合を想定して被害軽減の調査及び検討を行い、開発局、北海道、札幌市の行政機関、気象台、自衛隊、道警、消防局、北電、北ガス、NTT、NHK等官民一体となって、洪水危機管理体制の充実、整備に資するため設立されました。

豊平川は、道都札幌市内を貫流し、石狩川に合流する一級河川（流路延長73㎞、流域面積898㎢）であり、氾濫想定区域内人口密度3,200人／㎢を有する都市河川です。また、札幌市は豊平川流域に沿って開けた扇状地に形成された街で、豊平川の河床勾配は中流で1／100、下流の札幌市の中心部でも1／200以上の急勾配であるため、開拓以来幾度となく水害に見舞われ、最近では昭和56年の出水があり、破堤には至らなかったものの高水敷の浸食、橋梁の橋桁へ奔流の激突現象が見られるなど、その都度多大な被害を被っています。このように、現状で札幌市内を貫流する豊平川が氾濫すれば、札幌市の都市機能の停止のみならず、道経済に多大な影響を与え、現時点の試算では約29兆円もの被害が想定されています。このため豊平川は、河川管理上極めて重要な河川であり、未曾有の洪水が発生し、破堤・氾濫などした場合に流域内の関係機関等が連携して対処し、壊滅的な被害を回避するため豊平川の洪水危機管理体制をより一層充実を図る必要があります。

本委員会により、以下の点に対して調査・検討を行い、氾濫シナリオを作成し、時系列に各関係機関の役割分担・情報連絡など、連携のとれた行動計画について取りまとめます。

①豊平川の洪水に関する現状把握・分析
②洪水発生時の関係機関の連携、協力のあり方
③洪水発生時の情報伝達、避難のあり方
④洪水発生時の救護・救援・救急・復旧のあり方

また、この検討は、平成11年度を目途に取りまとめる予定です。

北海道開発局

魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業

～魚にやさしい魚道づくり～

●事／業／行／程●

モデル河川の申請
（地方建設局長、都道府県知事等）

▼

モデル河川の指定
（河川局長）

▼

実施計画の策定及び認定申請
（地方建設局長、都道府県知事等）

▼

実施計画の認定
（河川局長）

▼

モデル事業の実施
（地方建設局、都道府県等）

●魚道形式：バーチカルスロット階段式
●魚道構造：スイッチバック方式
コンクリート構造
魚道幅 B ＝4.0ｍ
プール長 L＝4.0ｍ
スロット幅 b＝0.5ｍ
魚道延長 L ＝110ｍ
（流路150ｍ）
魚道勾配 I ＝1／20

◎事業の目的

「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」は、地域のシンボルとなっている河川・渓流について、堰、床固、ダム等の河川を横断する河川管理施設及び許可工作物ならびに砂防ダム等とその周辺の改良、魚道の設置、改善、魚道流量の確保等を計画的、試行的に行い、全国の河川等のモデルとして、魚類の遡上環境の改善を行い、豊かな水域環境の創出を推進することを目的として、平成3年11月7日建設省河川局より施行されました。

石狩川は、平成6年度に「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル河川」の指定を受けたところであり、それに基づき、現在、石狩川中流部に位置する花園頭首工について、平成11年度の完成を目指し、部分撤去及び魚道の整備等が進められています。

この事業により、石狩川では、遡河性の魚種であるサケ、サクラマス等が旭川まで遡上することが可能となります。

◎花園頭首工の概要

河口から約120㎞に位置する花園頭首工は、昭和39年に石狩川（深川市）に設置された農業用取水施設です。当施設は、河川を横断する工作物であることから、洪水の流下を大きく阻害していたため、治水上早急な改善が必要とされてきました。また、落差が約7ｍと高く、魚の遡上を妨げてきたことから、魚類の遡上環境の面からも、改善が強く求められてきました。

このようなことから、営農の近代化を目指した取水系統の統合を機に、長年の治水上の懸案であった花園頭首工を部分撤去し、併せて、魚類の生息環境の向上を図るため、魚道を設置するものです。

魚道形式は、対象魚種、施設の落差等から、魚道勾配を1／20とし、バーチカルスロット階段式としました。また、魚道を直線的に配置すると延長が150ｍにも及び、魚の遡上・降下が困難と予想されるため、スイッチバック方式としました。

北海道開発局
石狩川開発建設部

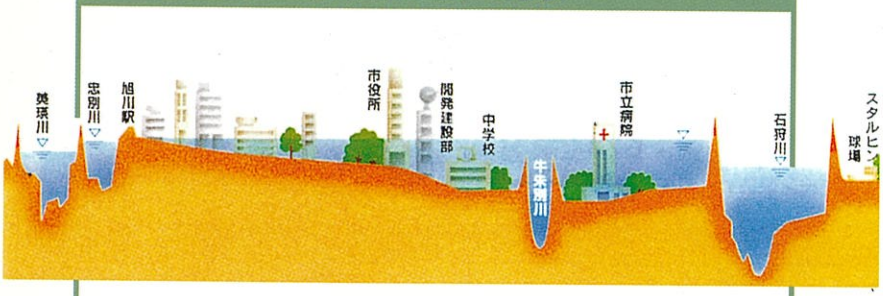
牛朱別川分水路

旭川開発建設部が昭和59年から工事を進めている牛朱別川分水路が平成10年3月に暫定断面完成の運びとなり、旭川市内に新しい川が誕生することとなりました。一般の方々からの公募により**「永山新川」**に決定しました。

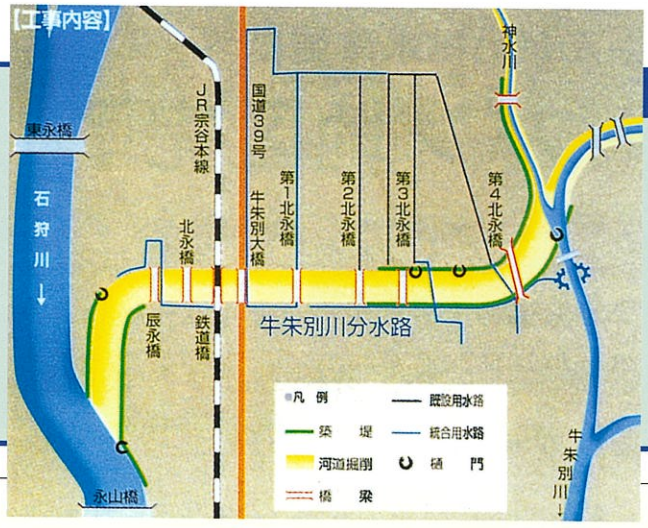
牛朱別川分水路は、旭川市東旭川町桜岡の石狩川支流牛朱別川から市内永山の石狩川本流までの約6㎞を幅200mにわたって堀削し、旭川市内が洪水に見舞われそうな場合には、牛朱別川の水を石狩川に毎秒約1、000㎥流して市内を洪水から守ることを目的とした事業で、今年の三月には暫定断面が完成して、計画の半分の流量を流すことができるようになります。

工事中の分水路に生じた水面には多くの水鳥や渡り鳥が飛来し、羽を休める遊水池として、多くの野鳥愛好家の目を楽しませています。当初は洪水時以外には水を流さないため、この水鳥の休息場所はなくなる予定でしたが、水面を保ちながら工事を進めるように変更し、2004年度の完成を目指して水路断面の堀削、水辺観察ゾーンや親水ふれあいゾーン、自然体験学習ゾーンといった親水空間整備を始め、車椅子でも水面に近付けるように舗装スロープを設ける計画も進めています。

分水路建設の背景



牛朱別川の川幅は、旭川市の中心部に入って急に狭まります。そのため、増水のたびに水害の不安がつきまとっていました。



北海道開発局
旭川開発建設部

牛朱別川分水路

現在の牛朱別川は、下流の川幅が狭いために氾濫が起きやすい状態です。氾濫予想区域は旭川市の中心部をとりまいており、北海道経済や市民生活に及ぼす影響が懸念されていました。旭川開発建設部では、その対策として昭和59年から牛朱別川と石狩川を結ぶ人工水路“牛朱別川分水路”を建設し、洪水時には牛朱別川の水を石狩川に流すことが可能となります。

「忠別川」と「北彩都あさひかわ」

「北彩都あさひかわ」は、86haという広大な空間を有しています。この地区の北側に、昭和47年に歩行者の専用道路としてスタートした平和通買物公園を中心として現在の都心部が展開しており、また、地区の南側には、清流「忠別川」が流れています。

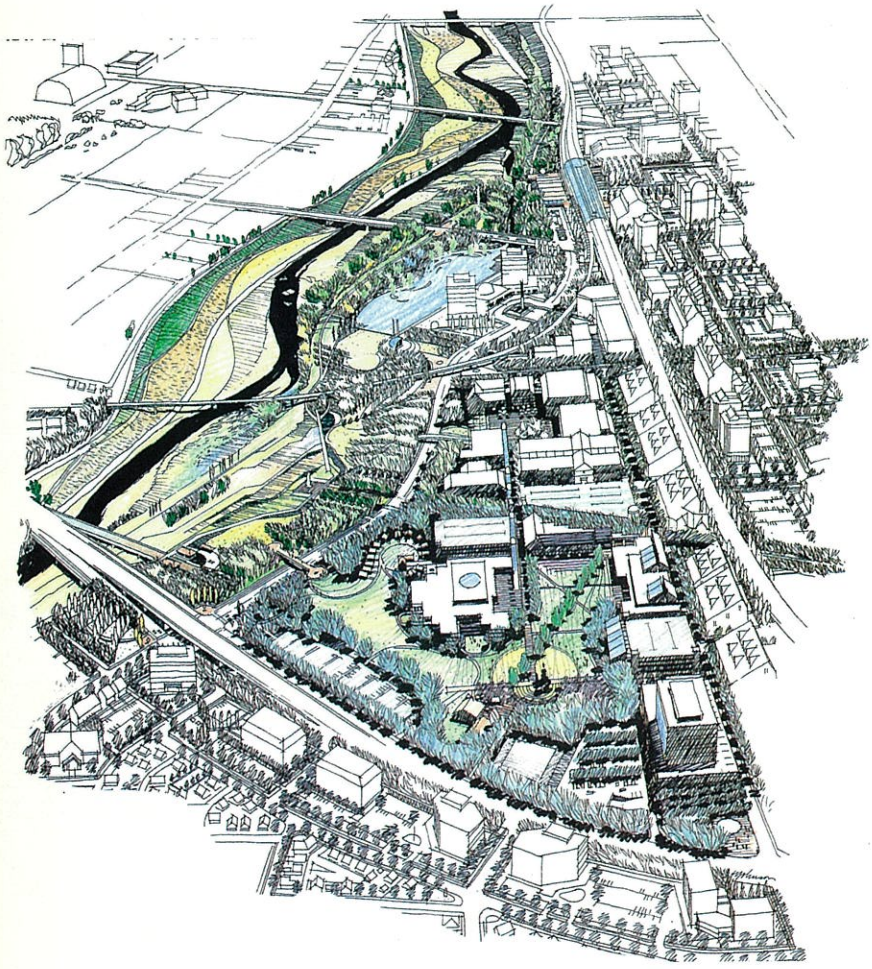
このような河川特性から北彩都あさひかわにおける忠別川は、その位置を都心部に置きながらも瀬と淵が比較的はっきりと認められ、中州や河原の発達、さらには豊富な河畔林による変化に富んだ自然景観が形成されています。

多くの人々の生活の場である都心部の安全性の確保とともに、この忠別川ならではの自然環境豊かな個性を最大限に活かした河川事業と北彩都あさひかわという都心形成とを連携させ一体的に整備することにより、都心に集う多くの人々が河川空間と触れあい、自然の力強さやおおらかさを日常の生活の中で体験できる都心形成が実現できると考えています。

このようなロケーションの中、北彩都あさひかわの計画は平成4年頃から本格的に始まり、いよいよ平成10年度に鉄道高架事業、土地区画整理事業などの事業が本格的に着工する予定になっています。この計画の大きな目標は中心市街地の復興をねらった「都心ルネッサンス」であり、市民はもとより広域圏の方々の共有財産であり暮らしの場でもある旭川市の都心部を魅力的で楽しく、活力のあるものにしようというものです。

旭川においてこのような都心部の実現を目指すとき、北彩都あさひかわの大きな財産のひとつである忠別川の存在（活用）が重要になってくると考えています。

忠別川は、その源を大雪山連峰の白雲岳に発し、天人峡の渓谷から東川町、東神楽町を経て旭川市内で石狩川本流に合流する一級河川です。また、旭川市街地南部はこの忠別川の土砂による扇状地であるといわれており、北彩都あさひかわ付近においても河床勾配が1／250～1／200という過去に幾度となく洪水を引き起こしている急流河川であります。



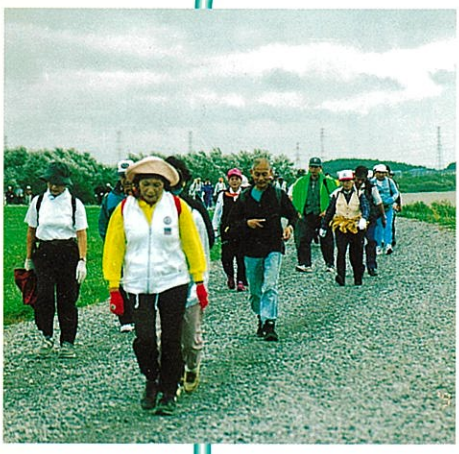
また、北彩都あさひかわでは、この忠別川の河川空間のみならず公園、道路、宅地など色々な機能を利用して「川の恵み」を都心部全体に導き出すことも大切であり、たとえば、大小様々な公園と川との連携、街路樹や宅地内の沿道植栽による市街地への緑の貫入など忠別川の存在をより大きな空間的な広がりとして都心部に活用していこうと考えています。

北彩都あさひかわにおけるこの忠別川の存在は、空間的・自然的・人間的スケールが織りなす新たな都心部の姿の実現に大きく期待を寄せるものであり、今後も関係機関との綿密な連携のもとに実施に向け取り組んでいきたいと思います。

旭川市

イベント便り

母なる石狩川を歩く！
「みずウォーク'97 北海道シリーズ」開催



北海道の母なる川・石狩川に沿って歩く「みずウォーク'97北海道シリーズ」が、旭川8月24日、札幌で9月28日に行われました。（札内川に沿って歩く十勝大会も8月31日に行われました）。

子供からお年寄りまで、全国的な広がりをみせているウォーキングですが、川にコースをとった「みずウォーク」は、健康づくりと合わせて、さわやかで新しい発見があると爆発的な人気となっています。本大会は、国際市民スポーツ連盟公認大会として3年前に東京・利根川流域で始まりました。翌年は利根川流域を中心に石狩川を含めた12会場で開催され、2万人が参加しました。

大会では、幅広い層が参加できるよう参加者の脚力に合わせて5㎞（初心者コース）、10㎞（ハイキングコース）、20㎞（健脚コース）の3コースを設けています。

旭川大会はあいにくの小雨模様の中、約400人が参加、また、札幌大会は澄みきった青空の下約950人が参加し、家族連れや若者グループ、ウォーキング愛好家など、参加者は石狩川の悠然とした清流を眺めながら、心地好い汗を流していました。

※今年は6月14日(日)滝川、7月12日(日)旭川、9月27日(日)札幌で開催します。

広大な河川空間に巨大な雪像が出現。
旭川冬まつり

第39回旭川冬まつりが2月6日から11日にかけて開催され、市民や観光客など70万人の人出で賑わいました。

旭川冬まつりのルーツは、戦後間もない昭和22年に常磐公園で開催された「北海道冬まつり」。当時、除雪後の雪の処理に困っていましたが、時の観光協会長が郷土出身の彫刻家加藤顕清の助言を得て、雪像を芸術化することに気付き、冬まつりを提案した、との逸話が残っています。その後、昭和35年に、大規模で、本格的な第1回の冬まつりが開かれ、年々、規模も大きくなり、昭和61年の第27回からは、常磐公園に隣接する石狩川旭橋河畔広場に会場を移し、現在に至っています。広い敷地の中で、ギネスブックにも認定される世界一の大雪像がそびえ立ち、まわりの白銀の世界、そして美しい曲線の旭橋とうまく調和しています。

今年のメーン雪像は、長野オリンピックの開催にちなみ、オリンピック発祥の地ギリシャの神殿と競技場を題材とした「北彩都あさひかわスタディオン」です。10年前、長野、盛岡、山形、旭川の4市で国内の冬季オリンピック招致運動を繰り広げた時の市民のエネルギーを思い起こすとともに、長野へのエールを送る意味を込めています。なお、「北彩都あさひかわ」は、水と緑が豊かな新しい都心空間をつくる旭川駅周辺整備事業の愛称です。

また、隣接した常磐公園会場では、氷彫刻のメッカといわれる旭川に、世界8カ国から120人の氷の彫刻家が集まり、「氷彫刻世界大会」が開かれました。競技開始から48時間の制限時間内に、氷の柱をキラキラと輝く美しい造形物に変えていく妙技を披露してくれました。陽が落ちると、木立の中では、「雪」と「あかり」を題材にしたあかりの芸術「雪あかり'98」が訪れた多くの人々を、幻想的な世界に誘っていました。

EVENT NEWS

石狩川振興財団の

活動報告

INFORMATION

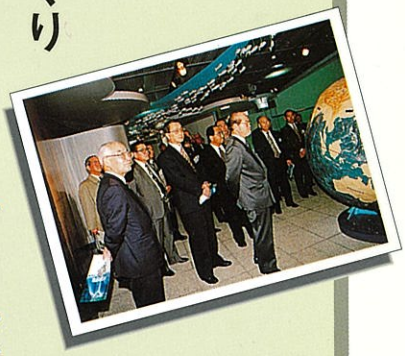
第4回 石狩川流域のなかのまちづくり 石狩川サミット開催

自然と人間の共生――川からのまちづくりを基本理念とした石狩川サミットは、石狩川流域の48市町村長が参加するという道内では類をみないサミットです。

第1回が平成3年、第2回が平成5年、第3回平成8年、そして第4回目の平成9年まで、6年の歳月をかけて石狩川と石狩川流域に関する様々な問題や将来を見越した問題について話し合われ、「石狩川の日」の創設やクリーンアップ作戦など様々な提案が実現され、大きな成果を上げています。21世紀が目前に迫った第4回石狩川サミットは、「石狩川流域のなかのまちづくり」をテーマに、平成9年11月6日、滝川市の滝川ふれ愛の里で行われました。

討議は①サミットのあり方 ②流域の視点からの諸提案 ③流域のビジョンの3つのセッションに区切って進められ、各自治体の企画担当者で構成する下部組織（シェルパ会議）を設けることが話し合われました。また、清流復活や森林の保全、また、カヌーなどのための川の駅の整備など、今回も様々な提案がなされました。

最後に、流域の観点から未来を構想し、アクションプログラムの策定に向け、協調して指導力を発揮することを盛り込むサミット宣言をまとめました。



第４回 石狩川サミット宣言

北海道は明治以来、国策、特に食糧、資源、人口の問題解決などの遂行において、他の都府県に替えがたい極めて重要な役割を果たしてきた。

石狩川流域は常にその根幹を成し、したがって、北海道の社会、経済の形成及び発展は石狩川流域抜きにして論ずることは出来ない。

石狩川流域に位置する48市町村を代表する首長は、石狩川流域のこの歴史的貢献に鑑み、環境保全、食糧、なかんずく米問題、行政改革などの緊急な課題を直視し、流域の観点から未来を構想し、アクションプログラムの策定に向け、石狩川サミット企画担当者（シェルパ）会議を設け、協調して指導力を発揮することをここに宣言する。

編集後記

◎不毛の泥炭湿地帯を一大沃野に変えた新篠津村。一世紀余りにわたる開拓の歴史には幾たびもの水害との闘いがある。今年は石狩川の計画的治水事業検討の契機となった明治31年9月洪水から100年になる。未だ改修途上にある石狩川、先人の足跡に学び、今日の社会経済に即した危機管理施策の早期確立が望まれる。

◎「川づくりはまちづくり、まちづくりは人づくり」、幾春別川にも石狩川サミットの理念を実践する活動あり。こうした動きを流域全体に広げ、流域の未来を自分たちのものとして大いに議論し、そして行動を。

◎本号から石狩川で行われるイベント情報を載せることになりました。憩い、潤い、そして楽しさを求めて川に出掛けてみましょう。

フクジュソウ

キンポウゲ科の多年草

"フクジュソウの花が咲くと、
背びれを輝かしながらイトウが川をのぼる"

川岸に春の訪れを告げる黄色い花、フクジュソウは、アイヌ語でチライ・アパッポ(イトウと花)またマンサク(満作)やガンジツソウ(元日草)とも呼ばれるおめでたい花。葉より先に花が咲き、4月～5月、川岸の土手や山すその林の中などで見られる。江戸時代に園芸用として作られ、根は強心剤など薬用に使われる。草たけは10～30㎝、オレンジや緑など50種程の栽培種がある。

監修　北海道開発局・石狩川開発建設部・旭川開発建設部
発行　(財)石狩川振興財団　〒060 札幌市中央区南1条東1丁目5番地　Tel (011) 242-2242
平成10年3月

※表紙PHOTO:「永山新川」(牛朱別川分水路)／旭川